

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	金沢学院大学
設置者名	学校法人金沢学院大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
情報工学部	情報工学科	夜・通信	0	0	19	19	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		0	20	20	13	
	経営学科	夜・通信			20	20	13	
文学部	文学科	夜・通信		0	20	20	13	
教育学部	教育学科	夜・通信		0	20	20	13	
芸術学部	芸術学科	夜・通信		0	20	20	13	
栄養学部	栄養学科	夜・通信		0	20	20	13	
スポーツ科学部	スポーツ科学科	夜・通信		0	20	20	13	
経済情報学部	経済情報学科	夜・通信		0	18	18	13	
(備考) 情報工学部は令和6年4月開設のため、1～2年のみ在籍。 経済情報学部は令和6年4月から学生募集停止のため3～4年のみ在籍。 3～4年次開講科目のみでは、基準単位数に満たないため、従前の教育課程に基づき、記載を追加。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページ「情報公開」 「大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る事項」 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/syugakushien/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	金沢学院大学
設置者名	学校法人金沢学院大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページ「情報公開」 「大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る事項」 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/syuugakushien/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社代表取締役会長	2025. 1. 19 ～2026. 6	企業経営の経験からの意見
非常勤	会社取締役	2025. 1. 19 ～2026. 6	企業経営の経験からの意見
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	金沢学院大学
設置者名	学校法人金沢学院大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 学位授与の方針と整合した到達目標、明確な成績評価基準などを学生等に対して示すため、シラバス作成要領を作成し、これに基づいてシラバスを作成している。さらに、作成したシラバスは、記載内容が適正であるかを学部長等による第三者チェックを行い、基準に合わない内容に対しては訂正・修正を行っている。シラバスは本学HPに掲載し、学生ほか一般者への公開を行っている。	
授業計画書の公表方法	本学ホームページ「WEB シラバス」 https://cmweb.kanazawa-gu.ac.jp/campusweb/slbsskgr.do
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 単位取得は、試験、レポート、作品提出、授業貢献度等を総合して評価している。評価の方法は、各シラバスに明記されており、学生に周知されている。成績評価は科目の担当教員が評価したものを、学部等間連絡会議にて問題がないかチェックをするなど、厳正かつ適正に実施している。科目履修、単位の修得、単位の算出基準等については、学生便覧の「金沢学院大学学修の手引き」に記載されている。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学ではGPA制度を導入しており、ポータルサイト上でこの値を確認することにより、自らの学修成果の推移を振り返ることができる。

判断基準及び算出方法については、学生便覧に以下の通り、掲載している。

<学生便覧(学修の手引き)より抜粋>

(8) GPA について

本学では、GPA (Grade Point Average) 制度を導入している。GPA は学内ポータルサイト Campusmate で確認できる。

① GPA の意味と活用

・GPA の値とは、各自の成績を数値化したものである。学期や学年毎の GPA や入学からの通算の GPA を比較することで、自らの学修成果の推移を知ることができる。

I. 本学が学生の学修状況を測定・把握し、学修到達度を検証するために活用する。

II. 進級判定・卒業判定に活用する。ともに基準は原則 1.0 以上とする。

III. 各種奨学金の受給審査や学業成績に関する学長褒章の候補決定のために活用する。

② GPA 対象科目

GPA の対象となる科目は、各学部が規定する卒業要件に関わる授業科目とする。(不合格科目も含む。)ただし、履修取消期間内に科目登録を取り消した科目は GPA の対象とならない。また、他大学等で修得した単位で、本学の単位として認定された授業科目は、GPA の対象とはしない。

③判定基準

GPA は、下記の基準に基づいて評価した成績の GP (Grade Point) に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った 1 単位あたりの GP 平均値 (Average) である。

判定	評価	評点	GP	内容
合格	秀	100 ～ 90	4	特に優れた成績
	優	89 ～ 80	3	優れた成績
	良	79 ～ 70	2	良好な成績
	可	69 ～ 60	1	合格と認められる成績
不合格	不可	59 以下	0	不合格
	放棄	—	0	放棄
認定	認定	—	—	他大学等で修得した科目を認定した場合

④ GPA の計算式

$$GPA = (\text{秀の単位数} \times 4 + \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1) \div \text{総履修登録単位数}$$

GPA の値には、不可、放棄の評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

学生便覧に掲載している。
また、学生便覧は、学内ポータルサイト「Campusmate」のほか、本学ホームページ「情報公開」に掲載している。
https://cmweb.kanazawa-gu.ac.jp/campusweb/binran/kg_digital.html

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業要件は学則第 28 条に以下のように定められている。 (抜粋) 第 28 条 本学を卒業するには、本学に 4 年以上在学し、別表第 1 又は別表第 2、別表第 3 若しくは別表第 4、別表第 5、別表第 6、別表第 7 に定める授業科目及び単位数を修得しなければならない。 これに基づいた各学部学科における詳細な内容は学則各別表及び学部規程に掲載されている。 学則及び学部規程は学生便覧に掲載され、公表されている。 卒業者については、各学部学科での教授会での審議を経て決定する。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	学生便覧に掲載 学生便覧は、学内ポータルサイト「Campusmate」のほか、本学ホームページ「情報公開」に掲載している。 https://cmweb.kanazawa-gu.ac.jp/campusweb/binran/kg_digital.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

学校名	金沢学院大学
設置者名	学校法人金沢学院大学

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学 HP「情報公開」11. 財務に関する情報 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/
収支計算書又は損益計算書	本学 HP「情報公開」11. 財務に関する情報 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/
財産目録	本学 HP「情報公開」11. 財務に関する情報 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/
事業報告書	本学 HP「情報公開」11. 財務に関する情報 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/
監事による監査報告（書）	本学 HP「情報公開」11. 財務に関する情報 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/

単年度計画（名称：	対象年度：	）
公表方法：		
中長期計画（名称：	対象年度：	）
公表方法：		

(1) 自己点検・評価の結果

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 情報工学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解したうえで、ネットワークシステムやソフトウェアを設計・構築・運用することにより、社会において DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進できる人材、あるいはビッグデータと機械学習を組み合わせた新時代のデータ分析により、社会において DX を推進できる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「3 つのポリシー」）
（概要） 定められた年限在学し、所定の単位（卒業研究を含む）を修得し、DX の推進に必要となる以下を満たす学生の卒業を認定し、学士（工学）の学位を与える。 1. コンピュータや情報ネットワークの仕組みを理解している。 2. コンピュータ工学、あるいはデータ科学の核となる知識と実践力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「3 つのポリシー」）
（概要） 1. 情報工学の基礎となる、数学、統計学、物理学の重点的な初年次教育を実施する。 2. コンピュータや情報ネットワークの仕組みの理解に必要となる、コンピュータ科学の科目を開講する。 3. 2 年次始めにコンピュータ工学、データ科学コースに分け、2 年次以降それぞれの専門科目を開講する。 4. 実践的能力を養うために演習科目を設けるとともに、卒業研究を課す。 5. 各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。また、複数開講される同一科目において著しい成績分布の差異が生じないよう基準を設け、客観的な成績評価を実施する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「3 つのポリシー」）
（概要） ・ DX の推進に取り組む意欲を持つ。 ・ 大学で学修するために必要な数学と理科、及び英語の基礎的な力を備えている。

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 言語や文化についての広汎な知識と、人間及び人間社会に対する深い洞察力を涵養して、自他の文化を担う人間同士の円滑なコミュニケーションに資することのできる創造性豊かな人材を育成する。 ・ 「学生が自ら学び、自ら考える力」を養い、時代の変化に対応できる人材を育てる。具体的には、文学、言語、心理、歴史の諸学の学びを通して、自己認識と他者理解を深めることにより、人間そのものを柔軟に理解し、加えて、自らが帰属している社会を複眼的に見つめ、自立して生きることのできる人材を養成する。 ・ 本学部で学修する学生は、予測困難な時代において、自らが主体となって種々の問題を

発見するために必要となる洞察力を磨くとともに、発見した問題に対する解を見出し、解決につなげるために必要となる知識やスキルを、多角的な学びを通して身につける。 ・卒業後の進路としては、本学部で学んだ柔軟な思考を生かすことのできる幅広い業種が考えられる。官公庁・マスコミ・出版・印刷・旅行・商社等や教育支援サービス関連業などで活躍できる人材を想定している。また、本学部で学んだ専門知識を生かし、国語・英語・社会・地理歴史の教員として活躍できる人材の養成を目指す。
卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法:本学ホームページ「3つのポリシー」) (概要) 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士(文学)」の学位を授与します。 1. 主体的に課題を発見し、考え、解を見出す力を身につけている。 2. 他者とのインタラクション(相互作用)を通して、見出した解をさらに発展させることができる力を身につけている。 3. 文学、言語、心理、歴史などを通して、人間や社会に対する深い洞察力を身につけている。 4. 地域社会において、その文化的発展に資する積極的な姿勢を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:本学ホームページ「3つのポリシー」) (概要) 文学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成しています。 1. 大学教育の基礎となるスキルを身につける初年次教育 2. 広い視野と人生を豊かにする教養を身につける一般教養教育 3. 自らの考えを広く世界に発信する力を身につける外国語教育 4. 自分の適性を見きわめ、人生を設計する力を身につけるキャリア教育 5. 他専攻の専門科目の受講を必須とする、人文科学・社会科学を横断的に学ぶ履修制度 6. 地域社会を学びの場とした教育 7. 自ら選択した学問分野の知識を深める専門教育 8. 主体的学修の集大成としての卒業研究
入学者の受入れに関する方針(公表方法:本学ホームページ「3つのポリシー」) (概要) ・文学、言語、歴史、心理、また、文化や社会、人間などに対し幅広い興味と関心を持ち、自分の目標や希望が明確である学生 ・自ら問い、自ら考え、自ら学び、主体的に社会で活躍する意欲を持つ学生 ・大学で学修するために必要な日本語や英語の基礎的な力を備え、さらにそれを伸長する努力を惜しまない学生

学部等名 教育学部
教育研究上の目的(公表方法:本学ホームページ「情報公開」) (概要) 本学部では、次のような人材を養成する。 ・広い教養に支えられた高度な教育実践力をもつ教師・保育者の養成 ・知的世界に冒険者・先駆者として子どもを導くことのできる教師・保育者の養成 ・企画者・構想者・学習者・共創者・先導者・支援者・援助者として学校教育をリードできる教師・保育者の養成 ・自他の精神的自由を大切にし、自己変革・自己成長への勇気をもつ教師・保育者の養成

これらの養成する人材像に基づき、以下の能力習得を目的とする： ・多様な人々と異見や対立を乗り越え、課題に立ち向かい、新たな解や智を共創できるための基本的技能としての共創型対話力の修得 ・地球社会の一員としての当事者意識・多文化共生のマインドをもち、今ある現実の課題の解決のみでなく、未来を見据える思想の涵養 ・多様な知識・能力・理解・技能・経験などを統合・総合し、新たな解や知恵を生起させる共創力の習得
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「3つのポリシー」） （概要） 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（教育学）」の学位を授与します。 1. グローバルな視点で発想し、地域社会の教育と文化の発展に貢献できる。 2. 教育に関する諸課題を主体的に発見・分析・理解し、幅広い専門的知見をもとにその対応策について協働的に考え、行動できる。 3. 豊かな人間性や感性を備えた高度専門的職業人としての使命と責任を自覚し、継続的な自己研鑽への意志をもって教育活動に取り組むことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「3つのポリシー」） （概要） 教育学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。 1. 学習指導論、教職論、保育原理などに関する教育学分野を中心に、教育活動全般で活用する基礎的な知識・技能の修得から専門的な知識・技能の修得に関する教育課程を体系的に編成する。 2. 豊かな人間性を備えた高度専門的職業人の育成のために、グローバル人材の育成、英語活動と英語教育、ICT活用、地域協働と組織マネジメント、インクルーシブ教育等の科目を体系的に編成している。 3. 保育、幼児教育、小学校教育、中学校英語教育に関してそれぞれ実習科目を設定し、理論と実践の往還を踏まえた学修の集大成としての卒業研究に臨めるように教育課程を編成している。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「3つのポリシー」） （概要） ・グローバル社会、多文化共生社会への幅広い関心を持ち、そうした時代に対応した人間形成のための理論・実践研究を深めようとする学生 ・教育への幅広い関心を持ち、教育実践者として、確かな知識と理論をもって教育の現代的課題の解決に向け意欲的に取り組もうとする学生 ・大学で学修するための必要な日本語や英語の基礎的な力を備え、高度な教育実践者となるための意欲をもち他者と協力していくことができる学生

学部等名 経済学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」） （概要） 経済や企業経営の仕組みに関する基礎を理解し、その活用方法を学ぶことによって、グローバル及びローカルな視点から地域経済や企業経営について分析するとともに、課題に対応していく実践的な知識を身につけた創造性豊かな人材を育成する。自らの問題の発見とその解決について対応でき、地域社会の未来を切り拓く人材を育成する。 ○経済学科 ・経済学に関する基礎的な知識を身につけた人材を育成する。

・経済学、経営学を有機的に結びつけて理解することのできる人材を育成する。具体的には、自ら問題を発見し、その解決方法を考えることのできる人材を育成する。 ・グローバル及びローカルな視点に立って地域経済の問題について分析し、理解する力を身につけた人材、データに基づいた現実的な解決策を提案できる力やスキルを多角的な学びを通して身につけた人材を育成する。 ○経営学科 ・経営学に関する基礎的な知識を身につけた人材を育成する。 ・経営学、経済学を有機的に結びつけて理解することのできる人材を育成する。具体的には、自ら問題を発見し、その解決方法を考えることのできる人材を育成する。 ・グローバル及びローカルな視点に立って企業経営の問題について分析し、理解する力を身につけるために、組織、戦略、財務の3つの視点から分析し、解決していく力を身につけた人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法:本学ホームページ「3つのポリシー」) (概要) ○経済学科 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士(経済学)」の学位を授与します。 1. 経済学に関する基礎的な知識を身につけている。 2. 経済学、経営学を有機的に結び付けて理解し、問題の発見と解決に関心をもって適切に対応できる。 3. グローバル及びローカルな視点に立って地域経済の問題について分析し、理解することができる。 ○経営学科 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士(経営学)」の学位を授与します。 1. 経営学に関する基礎的な知識を身につけている。 2. 経営学、経済学を有機的に結び付けて理解し、問題の発見と解決に関心をもって適切に対応できる。 3. グローバル及びローカルな視点に立って企業経営の問題について分析し、理解することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:本学ホームページ「3つのポリシー」) (概要) ○経済学科 経済学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成しています。 1. 経済に関する基礎的な知識を修得し、経済の仕組みや動きを理解できる能力を身につける。 2. 地域経済の現状を分析し、地域の持続可能性の向上に向けた課題、地域経済・社会の活性化と企業経営の両立へ向けた課題などを把握できる能力を身に付ける。 3. 地域経済の課題解決に向けて、自ら考え、地域づくりの先導役や地域ビジネスの中核となって行動する能力を身につける。 ○経営学科 経営学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成しています。 1. 組織運営や組織活動の評価に関する基礎的な知識を修得し、企業の仕組みや活動状況について理解できる能力を身につける。 2. 企業活動の現状を経理・会計情報を基に分析し、客観的データを基に企業活動の状況を組織内外に説明できる能力、企業の意思決定材料としての的確に情報提供できる能力を身に

つける。 3. 的確なデータ分析を通じて、地域社会のニーズに応えた、価値のある製品・サービスを創造するなど、地域の課題に応える企業活動を牽引できる能力を身につける。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「3つのポリシー」） （概要） ○経済学科 ・経済の仕組みや動きを理解、分析できる能力を身につけ、地域経済の現状を分析し、地域の持続可能性の向上に向けた諸課題を発見、その解決方を提案し、地域づくりの先導役なろうと考えている学生 ・地域経済の動向と企業経営との関係を理解し、地域経済・社会の活性化と企業経営の両立へ向けた諸課題を発見、その解決方を提案し、地域ビジネスの中核になろうと考えている学生 ・創造性豊かで地域社会に貢献する意欲を持つ学生 ○経営学科 ・企業経営の現状を経理・会計情報を基に分析し、意思決定材料としての的確に提供するとともに、客観的データを基に企業活動の状況を組織内外に説明することにより、適切な組織マネジメントをしたいと考えている学生 ・的確なデータ分析を通じて、地域社会のニーズに応えた、価値のある製品サービスを創造し、データ分析の結果をマーケティング、マネジメント、経営戦略等の強化に活用したいと考えている人材 ・創造性豊かで地域社会に貢献する意欲を持つ学生

学部等名 経済情報学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」） （概要） 情報化が進む現代社会においては、社会を取り巻く環境の基礎的な知識・理解に加えて、経済の仕組みやビジネスの動向を把握するだけでなく、様々なデータを活用し地域社会が抱える課題を解決することが重要になる。本学部では、経済に関する知識をもとに、地域社会が持つ課題に対応できる、実践的なスキルを身につけた人材の育成を目指す。 ○経済情報学科 ・経済学及び経営学の学びを基礎とし、地域社会における課題に対し、社会環境の理解と各種データの活用により、地域の産業の進展に貢献し地域社会を豊かなものにできる人材を養成する。 ・各種データを分析するためのICT活用能力を有し、それをツールとして用いて組織の業務プロセスを革新するためのプロジェクトマネジメント能力を修得することにより、地域の幅広い組織・企業において活躍できる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法:本学ホームページ「3つのポリシー」) （概要） 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（経済情報学）」の学位を授与します。 1. 経済学、経営学及び情報学に関する基礎的な知識を身につけている。 2. 経済学、経営学及び情報学を有機的に結びつけて理解し、課題の発見と解決に関心をもって適切な対応できる。 3. グローバル及びローカルな視点に立って企業経営や経済の問題について、適切なデータ分析を活用して理解することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「3つのポリシー」）
（概要） 経済情報学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。 1. 経済に関する基礎的な知識を修得し、経済の仕組みや動きを理解できる能力を身につける。 2. データ分析に関する情報学的な知識を修得し、経済の理解に基づく情報処理能力を身につける。 3. 地域経済の現状を分析し、地域の持続可能性の向上に向けた課題、地域経済・社会の活性化と企業経営の両立へ向けた課題などを、情報分析能力をもって把握できる能力を身につける。 4. 地域経済の課題解決に向けて、自ら考え、地域づくりの先導役や地域ビジネスの中核となって行動する能力を身につける。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生募集を停止しているため現在非公表） （概要） ・経済学及び経営学の学びを基礎とし、地域社会における課題に対し、社会環境の理解と各種データの活用により、地域の産業の進展に貢献し地域社会を豊かなものにしようと考えている学生 ・各種データを分析するための ICT 活用能力を有し、それをツールとして用いて組織の業務プロセスを革新するためのプロジェクトマネジメント能力を修得することにより、地域の幅広い組織・企業において活躍したいと考えている学生 ・創造性豊かで、地域社会に貢献する意欲を持つ学生

学部等名 芸術学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」） （概要） 表現領域についての広汎な技術及び知識と、社会に対する深い洞察力を養成し、円滑な意思疎通や自己表現に資することのできる創造性豊かな人材を養成する。 ○芸術学科 ・現代社会における芸術の役割を理解し、芸術を通して新たな社会を築くための創造力と実行力を備えた人材を養成する。 ・個人制作と協働制作の両方の過程を経験することにより、創造的思考・論理的思考の養成のみならず、社会における自己の役割を認識し、意思決定を行い行動できる人材を養成する。 ・卒業後の進路として、本学部で養成された創造性や観察力、課題発見・解決能力は、現代社会の多くの分野で必要とされる。芸術の専門的な知識・技術を活かした教職・学芸員をはじめ、デザイン・印刷等の企業はもちろん、多様な社会で活躍できる人材の養成を目指す。
卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法:本学ホームページ「3つのポリシー」) （概要） 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（芸術学）（Bachelor of Art and Design）」の学位を授与します。 1. 表現領域についての広汎な技術および知識と、社会に対する深い洞察力を有し、円滑な意思疎通や自己表現ができる。 2. 創造的かつ論理的な思考力を持ち、社会における自己の役割を認識し、自ら考え、自ら

行動できる。 3. 芸術の専門的な知識・表現技術のみならず、創造性・観察力、課題発見・解決能力を、現代社会の多様な分野で活かすことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「3つのポリシー」） （概要） 芸術学部では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。 1. 創造の基盤となる「芸術表現基礎」を配した初年次教育 2. 広い視野と人生を豊かにする教養を身につける一般教養教育 3. 自らの考えを広く世界に発信する力を身につける外国語教育 4. 柔軟な発想と理解力を身につけるための横断的かつ多様な学びができる履修制度 5. 協働で問題解決を図るためのコミュニケーション能力を身につける教育 6. アクティブラーニングや地域連携等の活動を通して主体的に学ぶ実践教育 7. 芸術全般に関する知識や技能の修得を通して、地域社会との繋がりを理解する教育 8. 自らが選択した表現領域における専門教育 9. 主体的学修の集大成としての卒業研究・卒業制作
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「3つのポリシー」） （概要） 1. 絵画、造形、デザイン、映像、メディアに対する強い興味、また、社会や人、芸術全般に対する関心を自らの人生目標に反映させようとする学生 2. ものごとへの誠実な取り組み姿勢と五感を働かせて学びとる成果を、主体的に社会に還元していこうとする学生 3. 大学で学修するために必要な国語力、現代人としての教養を身につけ、さらにそれを伸長する努力を惜しまない学生

学部等名 スポーツ科学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」） （概要） スポーツ科学部スポーツ科学科は、スポーツの自然・社会科学の理論を総合的に理解し、指導力、実践力、およびマネジメント能力を兼ね備えた人材を育成する。 競技力の向上を図るアスリートや健康増進を図る地域のスポーツ愛好者のための、最先端のトレーニング法や健康づくり法などの総合的な能力を、理論と実践の両面から学ぶ。それを通じて、スポーツに深くかかわり貢献できる、次代を担う人材を育成する。 本学科の教育研究は、専門知識と理論の習得はもとより、社会の変化や時代が要請する創造性と革新性を志向する人材、人格においても高い倫理性と社会的規範を有する人材の育成を目指し、それに必要な能力を習得させる。
卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法:本学ホームページ「3つのポリシー」) （概要） 1. スポーツ科学（健康科学を包含）についての必要な知識と実践力を身につけている。 2. スポーツに関連する社会および個人の問題点をみつけたし、その解決策を提供できる。 3. アスリートはもとより、子供から高齢者までを対象に、スポーツプログラムを作成し、スポーツの科学的指導ができる。 4. グローバルな視点にたって、スポーツに関連する問題を考え、提言できる。 5. スポーツ科学の知識と実践力を、地域社会に役立てる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「3つのポリシー」）
（概要） 1. スポーツに関連する知識の習得に向けて、人文・自然科学の基礎的な能力、言語能力および情報能力を身につける。 2. 現状の自己分析と自己形成の方法を学び、将来の社会人としての在り方を、スポーツと関連づけてデザインできる能力を身につける。 3. スポーツの自然・社会科学の理論を総合的に理解し、指導力、実践力およびマネジメント能力を身につける。 4. 地域社会におけるスポーツに関連する課題解決に向けて、自ら考え、地域づくりの先導役として行動できる能力を身につける。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「3つのポリシー」）
（概要） ・スポーツ・体育・健康の領域に対し強い興味と関心を持ち、自分の目標や希望が明確である学生。 ・身につけた運動技能に関する知識をさらに高めて、スポーツ科学・体育学・健康科学の発展に貢献する情熱と意欲を持つ学生。 ・高等学校段階までの保健体育で学習する内容を理解し、さらに大学で学修するために必要な基礎学力を備え、自らの考えを自らの言葉で発信できる学生。

学部等名 栄養学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） ・幅広く深い教養と知識を身に付けた人間性豊かな職業人 食は命の基本であり、その食に携わる管理栄養士には、人の心に添いながら支援を行っていく自覚と、相手の人格を尊重し、人の心を理解できる気持ちを常に持ち続けることが求められる。高い倫理観と人間への尊厳と、広い視野を備えた人間性豊かな管理栄養士。 ・食と「栄養」に関する高度な知識と技術を有する専門職 現代社会を取り巻く食環境や文化も含めた食と「栄養」に関する幅広い知識と技術を持って、栄養学をはじめとする関連分野を論理的かつ科学的に理解し説明することができ、かつ、健康を食と栄養の視点から考え、実践的に行動できる管理栄養士。 ・食と「栄養」の力で疾病の予防に貢献できる専門職 健康の維持や増進、疾病の発症や高齢者の低栄養の一次予防、重症化予防などにかかわる「予防医学分野」で栄養学を実践し、地域、医療・福祉領域で健康を科学的・総合的に考え行動できる管理栄養士。 ・意欲的に成長し続ける栄養のスペシャリスト 食と「栄養」を介して人々のQOL（生活の質）の向上を支援するため、社会的責任と職業倫理を常に自覚し、生涯、自己研鑽を積み続ける、高い意識と強い意志を持った管理栄養士。
卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法:本学ホームページ「3つのポリシー」)
（概要） 1. 命の基本である食を通じた支援を人々に行う役割を担うことから、豊かな人間性と、その背景にある幅広く深い教養と知識を身に付けている。 2. 少子高齢社会の到来や、人々の価値観の多様化などによる食を取り巻く環境の変化を受け、高度化かつ複雑化が進んでいる栄養に関する高度な専門知識と専門技術を身に付けている。 3. 食環境・食文化を含めた食に関わる幅広い知識と技能を修得することにより、栄養学の概念を論理的かつ科学的に理解している。

4. 地域社会における、健康の維持・増進、疾病の予防・治療、高齢者の低栄養・介護予防に必要な栄養学及び関連学問分野の知識と技能を修得している。 5. 食と栄養と健康に関して、科学的根拠に基づいた論理的な思考ができる。 6. 予防の観点から、栄養に関わる諸問題を解決し、地域・医療・福祉・介護における栄養管理・栄養改善を実践できる。 7. 地域・医療・福祉・介護における栄養管理・栄養改善に、社会的な責任のもとに取り組む意欲をもつ。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「3つのポリシー」） （概要） 1. 全学共通科目においては、社会人としての知の基盤となる、教養と幅広い知識を身につけることで豊かな人間性を養う。 2. 1年次に導入分野を開講することで、管理栄養士における専門職業人としての将来の進路に関心を持たせる。 3. 2年次から専門基礎科目に加えて新たに専門科目を開講して、講義と実習や演習を有機的に組み合わせて学修することにより、高度な専門知識と技能を修得する。 4. 3年次及び4年次においては、臨地実習を病院・老人介護施設・保健所・保健センター、特定給食施設などできめ細かな指導のもとに行うことで栄養学の知識に加え技能を修得し、幅広い現場で実践できる能力を養う。 5. 4年次に卒業研究を全学生に課すことにより、栄養学における課題の発見・問題解決能力を涵養する。
入学者の受入れに関する方針(公表方法:本学ホームページ「3つのポリシー」) （概要） ・ 人間、健康、栄養そして食への関心があり、栄養学を学ぶ強い意志をもち、人間性と生命に対する畏敬の念を有する人 ・ 栄養学を学ぶにあたり、必要な基礎学力に加え、論理的な思考能力を有する人 ・ 知識・教養を基盤として、深い思考のもとに適切な判断ができ、柔軟な思考のもとに自由な発想で問題を解決し、また、コミュニケーション能力を磨き、自己表現能力を高めようとする高い志がある人 ・ 人とのかかわりを大切にし、多様性を尊重してチームワークのとれる豊かな人間性を持つ人 ・ 本学で学んだことを生かし、地域と社会において人々の栄養改善・健康増進に貢献したいという意欲と熱意を持つ人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：公表方法：本学ホームページ「学部・大学院」
<https://www.kanazawa-gu.ac.jp/academics/#academics-struct>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3 人	—					3 人
情報工学部	—	9 人	人	2 人	人	人	11 人
経済学部	—	12 人	4 人	3 人	人	人	19 人
文学部	—	8 人	8 人	6 人	人	人	22 人
教育学部	—	7 人	6 人	5 人	1 人	人	19 人
芸術学部	—	9 人	5 人	1 人	人	人	15 人
栄養学部	—	11 人	1 人	1 人	人	5 人	18 人
スポーツ科学部	—	8 人	1 人	4 人	8 人	3 人	24 人
基礎教育機構	—	1 人	5 人	3 人	1 人	人	10 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		47 人					47 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本学ホームページ「教員紹介」 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/teacher/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

[illegible]

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済学部	150 人 (100%)	2 人 (1.3%)	145 人 (96.7%)	3 人 (2%)
文学部	259 人 (100%)	5 人 (1.9%)	243 人 (93.8%)	11 人 (4.2%)
芸術学部	90 人 (100%)	0 人 (0.0%)	85 人 (94.4%)	5 人 (5.6%)
栄養学部	70 人 (100%)	0 人 (0.0%)	70 人 (100%)	0 人 (0%)
スポーツ科学部	162 人 (100%)	2 人 (1.2%)	157 人 (96.9%)	3 人 (1.9%)
経済情報学部	74 人 (100%)	0 人 (0.0%)	71 人 (95.9%)	3 人 (4.1%)
人間健康学部	5 人 (100%)	0 人 (0.0%)	3 人 (60.0%)	2 人 (40.0%)
経営情報学部	1 人 (100%)	0 人 (0.0%)	1 人 (100%)	0 人 (0.0%)
合計	811 人 (100%)	9 人 (1.1%)	775 人 (95.6%)	27 人 (3.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
学位授与の方針と整合した到達目標、明確な成績評価基準などを学生等に対して示すため、シラバス作成要領を作成し、これに基づいてシラバスを作成している。さらに、作成したシラバスは、記載内容が適正であるかを学部長等による第三者チェックを行い、基準

に合わない内容に対しては訂正・修正を行っている。シラバスは本学HPに掲載し、学生ほか一般者への公開を行っている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
単位取得は、試験、レポート、作品提出、授業貢献度等を総合して評価している。成績評価はあらかじめ設定した基準により、厳正かつ適正に実施しており、この基準は、学生配付の学生便覧に掲載して公開している。				
GPA 制度を導入しており、ポータルサイト上でこの値を確認することにより、自らの学修成果の推移を振り返ることができる。判断基準及び算出方法については、学生便覧に掲載している。				
卒業要件は学則第 28 条に定められており、これに基づいた各学部学科における詳細な内容は学則各別表及び学部規程に掲載されている。学則及び学部規程は学生便覧に掲載され、公表されている。卒業者については、各学部学科での教授会での審議を経て決定する。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
情報工学部	情報工学科	128 単位	有	年間 48 単位
経済学部	経済学科	128 単位	有	年間 48 単位
	経営学科	128 単位	有	年間 48 単位
文学部	文学科	128 単位	有	年間 48 単位
教育学部	教育学科	128 単位	有	年間 48 単位
芸術学部	芸術学科	128 単位	有	年間 48 単位
栄養学部	栄養学科	128 単位	有	年間 48 単位
スポーツ科学部	スポーツ科学科	128 単位	有	年間 48 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページ「キャンパス紹介」
<https://www.kanazawa-gu.ac.jp/campuslife/campus-introduction/#campusmap>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
情報工学部	情報工学科	1,000,000 円	200,000 円	400,000 円	
経済学部	経済学科	730,000 円	200,000 円	330,000 円	初年度その他は 270,000 円
	経営学科	730,000 円	200,000 円	330,000 円	初年度その他は 270,000 円
文学部	文学科 日本文学専攻	730,000 円	200,000 円	290,000 円	初年度その他は 280,000 円

	文文学科英 米文学専 攻	730,000 円	200,000 円	290,000 円	初年度その他は 280,000 円
	文文学科歴 史学・考 古学専攻	730,000 円	200,000 円	310,000 円	初年度その他は 280,000 円
	文文学科心 理学専攻	730,000 円	200,000 円	290,000 円	初年度その他は 280,000 円
教育学部	教育学科	750,000 円	200,000 円	370,000 円	
芸術学部	芸術学科	850,000 円	200,000 円	430,000 円	
栄養学部	栄養学科	850,000 円	200,000 円	430,000 円	
スポーツ 科学部	スポーツ 科学科	770,000 円	200,000 円	340,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学独自の奨学金制度 KG スカラシップでは、入試の成績及び高校での活動に応じて 4 つのランクを設定し、ランクに応じて授業料等の給付を実施するほか、KGC 講座の受講料を免除・減免するなど、目標実現に向けて、積極的に行動する学生を支援している。このランクは毎年度審査され、在学中の成績によりランクアップも可能となっている。その他各種奨学金を含めた奨学金制度については、本学ホームページ「奨学金制度」やキャンパスガイド等に記載するほか、年始のオリエンテーション等で案内し、学生部が窓口となって常時学生に情報を提供し、質問等に応じている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 就職支援部では、学生一人ひとりの希望に応じた職種・業種の紹介や就職相談をはじめ、個別の模擬面接、試験対策「KGC 講座(金沢学院キャリア講座)」、企業採用担当者を招いての「学内企業説明会」など、さまざまな取り組みを実施している。また、教職を目指す学生に対しては、教職センターにおいて採用試験対策講座等を実施するなど、教職員が一丸となってサポートしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学内に「保健室」と「なんでも相談室」を設置している。保健室は、学生自身が健康への関心と理解を深め、充実した学生生活を送っていくことができるようサポートしており、「なんでも相談室」は、心身の健康、人間関係、修学・履修、進路・就職、その他どんな学生生活上の問題についても相談に応じ、学生自身が、不安なく充実した学生生活を送っていくことができるようサポートしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ「情報公開」 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F117310105497
学校名（〇〇大学 等）	金沢学院大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人金沢学院大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		347人（ ）人	385人（ ）人	386人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	195人	191人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	86人	84人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	57人	55人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－人	22人	
	区分外（多子世帯）	0人	33人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－人（ ）人
合計（年間）				390人（ ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	0人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。